

魔法の水 ORS(Oral Rehydration Solution)

船引小学校長 安生昌弘

今日はまず、魔法の水と呼ばれているORSという飲み物がある先生に飲んでもらいます。(ここで校長手作りのORS<経口補水液>を飲んでもらいました。)感想を聞いてみましょう。おやおや、美味しくないと言っていますね。でも、このORSを必要とする人がいるのですが、どんな人だと思いませんか。実は、開発途上国の子ども達に必要なのです。開発途上国とは、人々が生活するためのインフラといって道路・鉄



道・水道・電気・ガス・学校などがきちんと整っていない国々のことで、地球上ではアフリカやアジアに多くあります。それでは、どうしてアフリカやアジアの子ども達はORSを必要としているのでしょうか。実は、このORSを飲むと体の外に出ていってしまった水分を補うことが出来て、体力を回復させることが出来るからなのです。日本では、もっと美味しくしたORSを熱中症から快復する時に飲んでいます。

現在、世界中で毎年、およそ660万人の5歳より小さい子ども達が病気や戦争、食べ物がないことで亡くなっています。毎日、1万8千人の小さい子どもが亡くなっていることになります。1万8千人というと田村市の総人口(約3万6千人)のちょうど半分と同じくらいになります。こうしていても、世界のどこかで、1秒間に5人もの小さい子ども達が亡くなっているのです。一番多くの子ども達が亡くなっているのが、アフリカやアジアの開発途上国なのです。



アフリカやアジアの子ども達が病気で亡くなっていく一番の原因は何だと思いませんか。それは何とお腹を壊す「下痢」なのです。下痢で毎年およそ60万人ほどの子ども達が亡くなっているのです。2週間にも満たない11日間で田村市の総人口と同じくらいの子どもの下痢が原因で亡くなってしまうんです。下痢で体の外に水分が出ていってしまっ、脱水症状というのになって亡くなってしまうんです。

ここで、脱水症状から命を守ってくれるのが、さっきのORSです。私が特別に作ってきた飲み物だったのです。この命を救う魔法の水のようなORS 1 リットルは日本で作るといくら位だと思いますか。わずか10円です。水道の水に砂糖と食塩を入れて作りました。なぜ、こんなに安くて簡単に作れるORSがあるのに1年に60万人もの子ども達が下痢で亡くなっているのでしょうか。開発途上国には、飲んで良い安全な水がとても少ないのです。日本では水道の蛇口から、きれいな水がいつも出てきます。しかし、開発途上国では川や池の水、あまりきれいではない井戸の水を利用しています。その水の中には下痢を起こしやすい、ばい菌が多く生きています。また、ばい菌が多いので、簡単にはORSを作ることが出来ないのです。

日本に住んでいる私たちに出来る事がありそうな気がしますね。ユニセフという世界の国々が力を合わせて創っている集まりが、開発途上国の水道やきれいな井戸を作ること、ORSを送ってあげるなどを行っています。この前、JRC委員会が募金をしたユニセフへの寄附も、私たちに出来る事の一つかも知れませんね。大人になったらたくさんの寄附を考えて下さい。今日は、世界には命を失う子どもがたくさんいること、でも、それを救う物や人や集まりもあるし、私たちのできることもあるんだよというお話でした。

unicef 
for every child